

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：9月英国労働統計

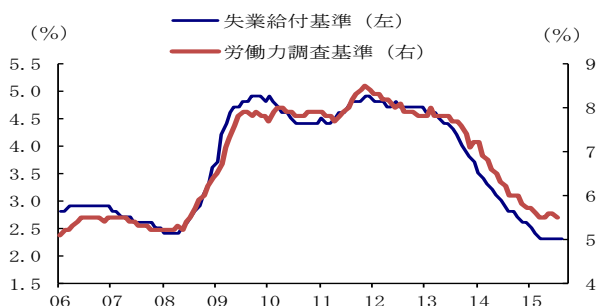
発表日：2015年9月16日(水)

～賃金上昇率は危機前の水準に復帰～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

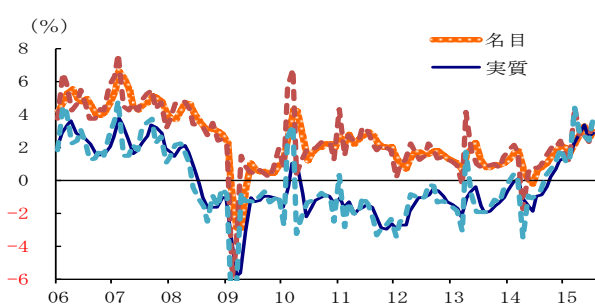
- 英国の失業率（労働力調査）は7月までの3ヶ月平均で5.5%と3・4月の水準に低下。振れの大きい単月の失業率が同一サンプルの4月：5.7%→7月：5.4%に低下したことが奏功。来月は3ヶ月移動平均を押し上げている5月値（5.7%）が除外されるため、一段と低下する可能性がある。
- 失業給付基準の失業率は8月に2.3%と5ヶ月連続で今次サイクルの最低水準で推移。ただ、失業給付の申請件数は過去3ヶ月で2回前月対比で増加しており（8月は前月差+1,200人）、失業者の減少ペースは鈍ってきている。また、労働力調査ベースの就業者が7月までの3ヶ月平均で3ヶ月振りに増加したが、これは自営業者やパート労働者の増加によるもので、フルタイム労働者は減少に転じた。ヘッドラインの改善と比べて、雇用の“質”はそれほど良くない印象。
- 全産業の週当たり賃金（賞与除く）は7月までの3ヶ月平均の前年比で+2.9%に加速し、2009年1月（同+3.1%）以来の高い伸びを記録した。7月単月の上昇率は同+3.2%と2008年10月（同+3.6%）以来の高い伸び。賞与を含めた週当たり賃金は、7月までの3ヶ月平均で同+2.9%と、賞与が大幅に増加した5月（同+3.3%）には届かなかったものの、春先以降に徐々に上昇率が切り上がっている。
- 消費者物価の上昇率がゼロ近傍で推移しており、実質賃金を大きく押し上げている。実質購買力の改善が家計消費の増加を後押ししよう。雇用改善ペースにやや翳りがみられ、労働生産性の改善が単位労働コストの抑制要因となるものの、今月の賃金上昇率の加速は利上げ観測を高める内容。

■英国：失業率



注：労働力調査基準は3ヶ月移動平均 出所：英国統計局

■英国：週当たり賃金・賞与（全産業、前年比）



注：実線は3ヶ月移動平均値 出所：英国統計局

■英国の失業給付・平均賃金

	2014			2015							
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
失業率（失業給付、%）	2.7	2.6	2.6	2.5	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3
失業給付件数（前月差、千人）	-21.4	-26.0	-27.3	-35.7	-24.4	-15.1	-7.8	-1.2	0.2	-6.8	1.2
失業率（労働力調査、%）	6.0	5.8	5.7	5.7	5.6	5.5	5.5	5.6	5.6	5.5	—
（単月の失業率、%）	5.9	5.6	5.6	5.8	5.4	5.5	5.7	5.7	5.5	5.4	—
就業者数（前月差、千人）	114	38	103	143	248	202	114	-67	-63	42	—
週当たり賃金（産業計、前年比、%）	1.5	1.8	2.1	1.9	1.7	2.3	2.7	3.3	2.6	2.9	—
賃金	1.6	1.8	1.7	1.6	1.9	2.3	2.7	2.8	2.8	2.9	—
ボーナス	-1.5	2.8	10.9	8.0	2.1	0.8	1.4	5.1	-1.5	3.8	—

注：労働力調査基準の失業率、就業者数、週当たり賃金は当月で終わる3ヶ月移動平均 出所：英国統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。